西　尾　市
学　生　議　会

令和８年８月２１日　午後２時から午後４時４０分まで

西尾市役所　議場

議長／幡豆中学校　岩根史弥

西尾市学生議会の開会にあたり御案内します。

傍聴される皆様におかれましては受付でお配りした注意事項をお守りいただき円滑な進行に御協力をお願いします。

また、開会中は報道関係者が写真撮影のために議場内に入室しますので、御承知おきください。

それでは、開会までもうしばらくお待ちください。

議長／幡豆中学校　岩根史弥

皆さん、こんにちは。本日、前半の議長職を務めさせていただく幡豆中学校の岩根史弥です。よろしくお願いします。

ただいまから西尾市学生議会を開会します。

初めに、中村市長から挨拶があります。

市長挨拶

市長／中村　健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村　健です。

11名の学生議員の皆さん、今日は学生議会に御参加をいただき、本当にありがとうございます。今日は皆さんが西尾市に住んでいる中で、どうしてここはこうなっているのだろうとか、もっとこうなればいいのにというところを、ストレートに僕らに意見をぶつけてくれるというふうに思っています。皆さん、中学生ではないですか。僕らは大人で、皆さんよりも長く生きてきて、いろいろな経験をしているのですけれども、ただ、大人になって経験が増えてきてしまうと､例えばなんでこうなっているのだろうと疑問を持つよりも、これはこういうものだなとか、昔からこうなっているとかといって、ちょっと考え方が固くなってしまう傾向があるのですよ。そうすると、若い皆さんのそういった疑問点だとか思いというものが、これからの西尾市を考える上でのすごくいいヒントになるというふうに思っています。

それに加えて、今の西尾市というのは、僕ら大人だとか、もっと前に生まれたその先人の皆さんの努力によって今の西尾市がありますけれども、これからの西尾市は皆さんがつくっていく西尾市でもあります。だから今回の学生議会についても、僕ら大人が皆さん子どもに対して、何かを教えるということではなくて、一緒になって西尾市の未来を考えていく、そういう機会にできればなというふうに思っています。皆さんがこれからの西尾市を考えてくれる一市民として、僕らも真剣に受け止めて、真剣に答えさせてもらいますので、どうかよろしくお願いしたいというふうに思います。

ここの部屋がちょっと緊張するようなつくりの部屋になっていますので、皆さん既に結構緊張しているかと思います。なかなかリラックスしてくださいというのも難しいかもしれないけれども､でもなるべく肩の力を抜いて､自分のこれから言う意見に自信を持って、堂々とやってもらいたいというふうに思っております。

では、今日は１日よろしくお願いします。

議長／幡豆中学校　岩根史弥

これより学生議会の質問を行います。質問通告者は鶴城中学校、仲原そよ香議員、福地中学校、榎本莉彩奈議員、にしお特別支援学校、田村魁斗議員、一色中学校、安場奏元議員、東部中学校、新海夏芽議員、佐久島しおさい学校、髙橋伊吹議員、吉良中学校、吉川陽葵議員、西尾中学校、宮村悠生議員、寺津中学校、倉内拓真議員、平坂中学校、牧伽音議員、私、幡豆中学校、岩根史弥、以上の11名です。

質問の順番は、お手元に配布しました質問通告書一覧にある発言の順番のとおりです。

順次発言を許可します。

最初の質問者、鶴城中学校、仲原そよ香議員。

１番／鶴城中学校　仲原そよ香議員

それでは、通告に従い、質問します。

現在、西尾駅東駅前広場の工事が進められています。西尾駅は西尾市の中心にあり、多くの人が利用する場所だからこそ、私は西尾駅を明るくすることが、西尾市を明るくすることにつながると考えています。西尾駅の中でも私が特に明るくしたい場所は、おいでっきです。私もおいでっきを利用したことがあります。ストリートピアノや本棚が設置され、様々な方に活用されていると感じていますが、その一方で、おいでっきは暗く、閉鎖的な場所にあるので、一人での利用に不安を覚えることがあります。このため、おいでっきをより開放的で安心して利用できる空間にすれば、これまで以上に活用できると考えました。

そこで、３点提案します。

１つ目の提案は、西尾駅の改札口から、おいでっきを抜けてヴェルサウォーク方面へつながる広い階段を設置することです。さらに、改札口とおいでっきを仕切る壁をガラス張りにすれば、改札口からおいでっきが見えるようになるので、安心して利用することができると考えます。また、新しくつくる階段は、岐阜駅のように季節に応じたイルミネーションを取り入れることで、より多くの人が集まるきっかけになると考えます。

２つ目の提案は、おいでっきを通勤、通学者だけでなく、地域の人たちの憩いの場として活用するため、風情の感じられる空間にすることです。例えば、三重県のおかげ横丁や埼玉県の川越、岐阜県高山市のような街並みのようなデザインにしてはどうでしょうか。具体的には、市の特産物である抹茶やうなぎなどを気軽に楽しめるお店や、バラやカーネーションなどの花を購入できるお店を作り、落ち着いた音楽を流すことで、空間全体の魅力を高めることができると考えています。

３つ目の提案は、高架下の活性化です。西尾駅を誰もが明るく楽しく安全で安心して過ごせる場所にするためには、高架下の活性化も不可欠です。しかし、高架下には空きテナントがあり、人通りも少なく、暗く雑然とした印象があります。こうした場所が残ると、駅全体が明るくなったとは感じにくいです。

そこで質問をします。

西尾駅の高架下スペースの活用状況はどのようですか。

市民部長／味岡　淳

西尾駅を「明るくしたい」という、仲原議員の西尾市を思う強い気持ちがしっかりと伝わってまいりました。使われていない高架下の空きスペースが、暗くてさみしい印象を与えてしまっているのは御指摘のとおりです。「誰もが安心して楽しく過ごせる場所にしたい」という着眼点は大変すばらしいと感じております。

現在の西尾駅の高架下には、コンビニエンスストアと市が運営に携わる「ニコラボ」という施設があります。「ニコラボ」は「西尾市で新しいビジネスを始めたい」、「まちをもっと面白くしたい」という方々を市などが応援するための場所です。

また、「おいでっき」の下のスペースでは、熱い思いのある市民の方が「西尾市を盛り上げたい」、「駅を元気にしよう」と工夫をこらしてお店を出してくださっています。

一方で、まだ使われていない高架下の空きスペースは、所有者である名古屋鉄道株式会社が今後の活用方法を決めていくことになります。

しかしながら、市としても空きスペースのままにしておくのではなく、多くの方が集うにぎわいのある場所になってほしいと強く期待しております。

１番／鶴城中学校　仲原そよ香議員

ありがとうございました。高架下が西尾駅の新たな魅力になる日を楽しみにしています。

続きまして、質問２に移ります。

おいでっきは、暗く閉鎖的な場所という印象がありますが、市の見解はどのようですか。

市民部長／味岡　淳

「おいでっき」は、令和元年に市職員のアイデアから、もともと通路だった場所をきれいに作り直してできた場所です。現在では、ストリートピアノなどを通じて、多くの市民の皆さんに利用していただいております。

しかしながら、建物のつくりや家具の色、そして照明の暗さなどが重なって、「暗くて不安を感じる」という印象を与えてしまっていることを、市としても解決すべき問題として受け止めています。

そこで、市としては「おいでっき」を明るい空間にするため、「おいでっきシャイニングプロジェクト」という新しい取組を立ち上げました。まずは今年度、地元の企業や市民の皆さんと協力して、今ある机や椅子を明るい色に塗り直す計画を進めています。

さらに、これまで使われていなかった壁を「みんなの美術館」として、市内の子どもたちが描いた絵などを飾る予定です。子どもたちのいろいろな作品によって、楽しく明るい雰囲気に変えていきたいと考えています。

「一人でも安心して利用できる空間にしたい」という議員からの御提案のとおり、まずは今すぐできる工夫から、速やかに実行してまいります。

１番／鶴城中学校　仲原そよ香議員

ありがとうございました。市としてもおいでっきの暗さを課題として受け止めているとのことですので、再質問します。

おいでっきからヴェルサウォーク方面へ行くことができる広い階段を設置したり、改札口とおいでっきを仕切る壁をガラス張りにしたりすることで、おいでっきを誰もが安心し

て利用できる空間にしませんか。

都市整備部長／片山佳隆

西尾駅を誰もが安心して使える空間にするため、「おいでっき」の活性化に関する御提案、大変素晴らしい視点だと受け止めました。御提案の広い階段の設置や、改札との壁をガラス張りにすることにつきまして、どのような対応ができるか検討させていただきましました。

現在、駅前広場は来年３月の完成を目指し、多くの人が安全に行き交えるよう整備計画を進めているところでありまして、この計画の中に新たに広い階段を設置しようといたしますと、歩行者の流れを再検討するなど大幅な見直しが必要となるため、現時点での実施は難しいという判断に至りました。

また、改札近くの壁につきましても、建物の構造上、大幅な改修は非常に困難であるということになりました。すぐに形を変えることはできませんが、仲原議員が感じている「暗さへの不安」への解消は、取り組むべき重要な課題でございます。

「おいでっき」は構造上、午後から夕方にかけて暗くなりやすい特徴があります。そこで、先ほど申し上げた「おいでっきシャイニングプロジェクト」による空間づくりの工夫に加えて、今すぐできるハード面の対策として、照明の点灯時間を季節に合わせて延長し、日が落ちた後も、これまで以上に明るく安心して利用できるよう改善をいたします。

１番／鶴城中学校　仲原そよ香議員

ありがとうございました。

続きまして、質問３に移ります。

三重県のおかげ横丁のような、にぎわいのあるおいでっきになるよう通勤・通学者だけでなく、地域の人たちの憩いの場として活用しませんか。

市民部長／味岡　淳

西尾市の魅力を活かした憩いの場にしたいという、議員のワクワクする御提案は素晴らしいと思います。ただ、「おかげ横丁」は広い敷地を持つ観光地であるのに対し、「おいでっき」は駅通路の限られた狭いスペースです。そのため、同じようにお店をたくさん並べることは難しいかもしれません。しかし、「みんなが集まる賑やかな場所にしたい」という思いは市も全く同じです。先ほどお答えしたとおり、市でも今ある空間を明るくする取組を始めています。ここから先は、ぜひ若い皆さんの力を貸してください。大人が全てを用意するのではなく、「こんなイベントをやってみたい」「西尾市の魅力を発信したい」など、学生の皆さんが自らアイデアを出し、おいでっきを利用して実行してみませんか。市は皆さんの挑戦を全力で応援します。

１番／鶴城中学校　仲原そよ香議員

ありがとうございました。

本日の質問を通して、西尾駅は電車に乗るためだけの場所ではなく、交流が生まれる場所になってほしいと感じました。西尾駅が輝くことで人が集い、地域全体の輝きにつなが

っていくことを期待しています。
以上で質問を終わります。
ありがとうございました。

議長／幡豆中学校　岩根史弥議員

鶴城中学校、仲原そよ香議員の質問が終わりました。
次に２番目の質問者、福地中学校、榎本莉彩奈議員。

２番／福地中学校　榎本莉彩奈議員

それでは、通告に従い、質問します。
私のテーマは「道路の整備について」です。
私は中学生になってから、自転車に乗る機会が増えました。今年の４月から自転車の交通ルールが厳しくなり、より安全に自転車を利用することが大切になっています。ですが、自転車道を見ると、十分に整備されていない所があると感じます。
菱池町池ぞい交差点から県道豊田一色線の東側の歩道では、北に進んでも南に進んでも歩道が途中でなくなっていたり、自転車道の真ん中にガードレールがあったりして、通りにくいところがあります。いずれも一時的に車道を走らなければならず、車との距離が近くなり、接触しそうで怖いと感じるところもありました。また、福地北部小学校南側のたんぼ道や長縄町周辺の県道西尾幸田線では雑草が生い茂っていて道がふさがって通りにくかったり、アスファルトがひび割れてでこぼこしていたりして、安全に走れる状況ではない場所が所々にあり、とても危険だと感じました。
「にしお未来創造ビジョン」の基本計画では目標２として「誰もがほっとする持続可能なまち」という目標が掲げられており、道路の施策の中に「自転車・歩行者の安全確保のため、歩道整備などを進めます。」と書かれています。自転車の利用者や、自動車の運転手が安全に走行でき、歩行者も安心して歩ける道路環境を実現するために、雑草の除去や道路の舗装、ガードレールの設置の見直しを進めてほしいと考えました。
また、小、中高校生に通学に関するアンケートを取ってはどうでしょうか。特に、私たち中学生や高校生は通学で自転車を使うことが多いです。危険だと思う箇所などのアンケートをとり、実際の利用者の声をもとに整備を進めることで、より安全に走行できる道路になると考えます。道の幅を変えるのは難しいということは理解していますが、できることから解決策を考えていくことが大切ではないでしょうか。
そこで質問をします。
都市計画マスタープランの基本目標には「すべての人にやさしい都市づくり」が掲げられています。子どもも高齢者も、また、自動車、自転車、歩行者など、誰もが安心して道路を利用できるように、雑草の除去や道路舗装、ガードレールの見直しなどを行いませんか。

建設部長／榊原茂春

御意見ありがとうございます。市としても子どもから高齢の方たちまで、みんなが安心して暮らせる「すべての人にやさしいまちづくり」を最優先で進めています。今回、議員が

教えてくれた「県道豊田一色線」と「県道西尾幸田線」の危険な場所について、道路を管理している愛知県の担当者様に皆様にお話を聞いてきましたので、その結果をまずはお伝えいたします。菱池町池ぞい交差点のガードレールについてですね。ここは、まだ道路の整備が全て終わっていません。おっしゃったように、歩道設置が計画されていますが、まだ終わっていない状態です。ですので、使われていない場所があるのです。そこに路上駐車ですとか、車道を走ってくる車がそちらの方に入って行かないように、安全対策としてガードレールが今、設置されている状況です。ですので、整備が終わるまではしばらくあの状態ということです。

それから、福地駅の周辺の道幅についてです。「自転車で通るときに車との距離が近くて怖い」という皆さんの気持ち、本当によく分かります。この場所を広くして歩道を作るには、やはり土地を買収したり、そこの土地に建っている建物を移転したり、大きな工事になってまいります。そのため、今すぐ道路を広げるということは少し難しい状況です。ですが、おっしゃったとおり、皆様の安全に関わる大切なことですので、市としましても引き続き県の方に現状をしっかり伝えていきたいと思っております。

３つ目の西尾幸田線の草刈りや舗装の傷みについてです。愛知県では、県内のたくさんの道路の維持管理や整備をする中で、特に傷んでいて危ないところから順番に整備をしてくれています。雑草についても年１回程度の草刈り計画で進め、順番に対応に努めていてくれているところです。市が管理する道路のメンテナンスについて説明をいたします。道路の状態については、市の担当者が定期的にパトロールを行ったり、市民の皆様から寄せられた情報を現地に行って確認したりして、危険度が高い場所から優先的に整備、補修をしているところでございます。また、現在では、西尾市の公式ＬＩＮＥからも、道路のひび割れの状態ですとか、草木で見通しが悪い場所などを、写真を撮ってＬＩＮＥから情報を伝えることが今できます。議員のように毎日、道路を利用している方のこうした気付きが、事故を防ぐための大きな助けになってまいります。これからは、皆さんの声をもっと活かせるよう、私たちもより素早い対応を心掛けていきます。今回は気付きを伝えてくださり、ありがとうございました。

２番／福地中学校　榎本莉彩奈議員

ありがとうございました。

市の担当の方が定期的にパトロールを行ってくださっていることを知り、安心しました。

続きまして、質問２に移ります。

小学生、中学生、高校生から通学に関するアンケートを取り、利用者の声を道路整備に反映させませんか。

建設部長／榊原茂春

通学路の安全を守るためのとても大切な御提案、ありがとうございます。議員からいただいた具体的な報告には、私たち大人が普段見落としてしまいがちな、中学生の皆様だからこそ気付けるリアルな危険がたくさん詰まっていました。

市では、小学校の通学路について「西尾市通学路交通安全プログラム」といいまして、そうした仕組みを使って安全を守っています。具体的には、教育委員会や市役所の道路担

当、警察の方などと関係者とチームを作って、実際に皆さんが歩いている通学路を一緒に歩いて点検しています。そこで見つかった危険な場所については、どうすれば安全になるか、どこを優先して直すべきかを話し合い、対策を進めています。

道路の整備や拡張工事を行う際には、これまでも地元の方や町内会の皆様と話合いを重ねて進めてまいりましたけれども、実際に毎日その道を自転車で通学している皆様の生の声こそが、何よりも大切だと改めて実感しました。

そこで、議員の提案をぜひ実行に移したいと考えています。今後、市が道路の修繕や安全対策の計画を立てる際には、皆さんが実際に通学で感じている不安や改善してほしい点を伺うために、アンケート調査を、前向きに実施していきたいと考えています。

皆さんの気付きは、これからの西尾市の安全なまちづくりにおいて、一番のヒントになります。ぜひ、率直な意見を教えてください。一緒に、誰もが安心して通学できる道を考えていきましょう。

２番／福地中学校　榎本莉彩奈議員

ありがとうございました。

アンケートの実施を前向きに検討していただけることを、とてもうれしく思います。

続きまして、質問３に移ります。

にしお未来創造ビジョン」の基本計画の目標２「誰もがほっとする持続可能なまち」の都市計画道路の整備率という指標では、2032年の目標値は2027年から1.2ポイントの増となっています。令和８年４月の道路交通法の改正に伴って、これらの計画の見直しを行う予定はありますか。

建設部長／榊原茂春

まず初めに、都市計画道路の整備率について、御説明をします。現在、西尾市では約189キロメートルの都市計画道路を計画しています。「にしお未来創造ビジョン」の指標では、2032年までに全体 の1.2ポイント、1.2％の距離、距離にして約2.3キロメートルの整備を進める計画です。これが達成できれば、全体の75.7ポイントにあたります。距離にしますと、約143.1キロメートルの整備が完了することになります。

次に、今後の計画の見直しについて、御説明します。令和８年４月の道路交通法の改正では、自転車に対しても、いわゆる「青切符」が導入され、自転車を運転する皆様の安全意識もますます高まっています。西尾市としましても、安全に走行できる道路環境を整えていくことは重要だと考えています。

理想を言えば、都市計画道路を次々と整備できれば良いのですが、道路整備においては優先順位も考えていかなければいけません。地域に根差した狭い道の拡幅や、通学路の歩道整備、さらには橋やトンネルの補修など、限られた費用の中で多くの事業をバランスよく進めていく必要があります。

そのため、都市計画道路の費用を急激に増やせば、他の安全対策が手薄になってしまうという難しさがあります。現時点では、まずは今の計画をしっかりと進めることが、全体の安全を守るために最善であると考えています。

しかし、道路に求められる役割は時代とともに進化しています。次に計画を見直す機会

では、安全・安心を第一に、自転車が安全に走行できることを反映させ、より多くの方が快適に利用できる道路を実現するため、高い目標値を設定した計画づくりを進めてまいります。今後も、皆さんが道路に関心を持っていただき、意見を聞かせていただくことで、より良い道路の整備に役立てていければいいと思います。

御意見ありがとうございました。

２番／福地中学校　榎本莉彩奈議員

ありがとうございました。

現時点では、今の計画を進めることが全体の安全を守る最善ということが分かりました。お話しを聞いて、既に道路整備に力を入れてくださっていることを知りました。さらに、西尾市公式ＬＩＮＥでは、写真付きで危険箇所を伝えられるとても便利なシステムがあるということを教えていただいたので、友達や家族にも伝えて、有効活用したいです。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／幡豆中学校　岩根史弥議員

福地中学校、榎本莉彩奈議員の質問が終わりました。

次に３番目の質問者、にしお特別支援学校、田村魁斗議員。

３番／にしお特別支援学校　田村魁斗議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「車いすでも気軽に外出できるまちに」です。

私は、西尾市吉良町に住んでいて、車椅子を使って生活しています。野球などのスポーツ観戦や好きな食べ物を買いに出かけることが好きです。

私の住む吉良町の家の周辺にあるバスや電車などの公共交通機関は、車椅子では通いづらい距離にあります。そのため、家族に車で送ってもらわないと出かけることができません。また、入り口に段差があったり、通路が狭かったり、車椅子では利用しづらいお店もあります。

車椅子を使う私たちは、自分の行きたいときに、行きたい場所へ気軽に出かけることが難しいのが現状です。家族に頼ることもできますが、将来、社会に出て自分の力で生活することを考えると、今のままでは不安に感じてしまいます。

車椅子を使う人だけでなく、お年寄りやベビーカーを使う人など、移動に不便を感じている人はたくさんいると思います。誰もが気軽に出かけて、買い物をしたり、人と関わったりできるまちは、みんなにとって暮らしやすいまちだと思います。

私には障害がありますが、自分にできることを生かして、社会に出て様々な人と関わりながら生活していきたいと考えています。そのために、気軽に社会参加できる場所や仕組みを増やしてほしいと思っています。

そこで質問します。そこで質問します。

市内で利用できる「いこまいかー」や、福祉タクシーチケットの配布などの取組をされていることは知っていますが、他に福祉サービスはありますか。また、今後、どのように

公共交通機関を整えていく予定ですか。

健康福祉部次長／福井美保

福祉タクシーチケットについて、事前に調べていただきましてありがとうございます。福祉タクシーチケットの他に、車椅子を使用される障がいのある方などへの交通に関わる福祉サービスとして、福祉課では、自動車運転免許を取るための費用ですとか、運転するために必要な自動車を改造するための費用をそれぞれ10万円まで補助して、社会参加を後押ししています。

市民部長／味岡　淳

市民部関係分について、お答えします。

公共交通機関の整え方について、御質問ありがとうございます。

西尾市では、鉄道やバス、いこまいかーなどが、それぞれの役割を持って、チームのように協力し合うことで、公共交通を担っています。この仕組みを「木」に例えて説明します。

まず、鉄道は、木の「幹（みき）」です。一度にたくさんの人を時間通りに遠くまで運ぶことができる、公共交通のいちばん大切な部分です。

次に、「六万石くるりんバス」などは、「枝（えだ）」です。鉄道の駅から、皆さんの住んでいる地域の近くまで広がって移動を助けます。

そして、「いこまいかー」のようなタクシーを使ったサービスは「葉っぱ」です。幹や枝ではいき届かない部分を補う役割を果たすもので、高齢者の方や車の運転ができない方など、移動に困っている方のすぐそばまで行き、駅やバス停といった「幹」や「枝」までつなぎます。

通勤や通学、病院やお買い物など、日々の移動を支える鉄道やバス、タクシー、そのどれか１つでも欠けてしまえば、皆さんの暮らしはたちまち不便になってしまいます。

西尾市では、誰もが自由に移動できる環境と、地域の公共交通を未来へ残していくことが大切なテーマだと考えています。皆さんがいつまでも安心して使い続けられる公共交通を、ぜひ一緒に守っていきましょう。

３番／にしお特別支援学校　田村魁斗議員

ありがとうございました。

現在の公共交通の守っていくことの大切さが分かりました。また、自動車運転免許に関する費用の補助については、知らなかったので、勉強になりました。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

車椅子を使う人でも気軽に入れるお店や施設を増やすために、西尾市がお店などに働きかけている取組みはありますか。

都市整備部長／片山佳隆

都市整備部関係分について、お答えをいたします。

車椅子を使う方が気軽に外出できるまちづくりは、大変重要なテーマの一つであると考

えております。

西尾市の都市づくりの長期的・総合的な指針として、都市計画マスタープランという計画がございます。この中では、どんな人にも使いやすいユニバーサルデザインというものがございますが、そちらの観点で、円滑に移動できるよう段差解消や通路の広さを確保するといったバリアフリー化の促進を図っております。人にやさしく、歩きたくなる都市づくりを目指すとしており、この中にお店や施設のバリアフリー化ということも、目標の中に含まれています。

しかしながら、市内の多くのお店は個人の方が経営するお店となっておりまして、入り口の段差解消ですとか、通路を広げるなどのバリアフリー化を進めるには、個人の経営者の方に多額の費用を御負担いただくことになってしまうものですから、市から改修を働きかける取組というのは今のところ行っておりません。

なお、愛知県には「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」という、こういう決まりがございまして、多くの人が利用する施設の新築ですとか増築、その際には、一定のバリアフリー整備基準というのがございまして、そういったことを守ることが義務付けられています。そういったことを市に個別に御相談をいただいた場合には、この基準に則った整備を行われるようお伝えをさせていただきまして、全ての人が気軽に利用できるお店や施設を増えていくような形を目指していきたいと思っております。

市としましては、まずは道路などの公共空間、そういった場所のバリアフリー化を先行して進めていくことで、お店へアクセスしやすい環境をまず整備をさせていただきます。その後、結果として、バリアフリー化への理解が地域全体に波及するよう努めていきたいと思っています。田村議員がおっしゃるように、車椅子を使う人だけでなく、お年寄りやベビーカーを使う人など、誰もが気軽に外出できるように、暮らしやすいまちを目指してまいりたいと思います。

健康福祉部次長／福井美保

健康福祉部関係分について、お答えします。

施設を使いやすく整備するというハード面でのバリアフリーだけでなく、みんながそれぞれ違っていることを当たり前として認め合い、心のバリアを取り除く、心のバリアフリーも重要で、障がいのある方や高齢者などが外出することを難しく感じてためらったときに、周りの人が積極的に協力できる雰囲気づくりが大切であると考えています。

今年度は、障がいのある人が地域で安心して暮らせるように、必要な支援や取組、そして理解を広げる活動などを、いつまでに、どのように進めていくかを決める第８期障がい福祉計画を策定しますので､心のバリアフリーがより一層広がるように計画に盛り込んで、西尾市が目指す、市民一人ひとりが支え合い、誰もが生きがいを感じて暮らせる「地域共生社会」の実現に向けて、取り組んでいきたいと思います。

また、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるには、行政だけでなく、市民の皆さんの協力が欠かせません。令和６年４月に障害者差別解消法が改正され、障がいのある方が会社やお店などに対して困難を取り除いてほしいと伝えた場合、負担が重すぎない範囲で困難を取り除くことが義務付けられましたので、田村議員も不便なことや困ったことをお店の人に伝えてみるなど、できる範囲でまちづくりに参画していただけたらと思います。

３番／にしお特別支援学校　田村魁斗議員

ありがとうございました。誰もが気軽に出かけることができるように、公共空間や心のバリアフリーを推進してくださっていることを知りました。

また、よりよいまちにしていくために、私も市民としてどのように社会参加していくべきかを考えて、行動していくことが大切だと感じました。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／幡豆中学校　岩根史弥議員

にしお特別支援学校中学部、田村魁斗議員の質問が終わりました。

次に４番目の質問者、一色中学校、安場奏元議員。

４番／一色中学校　安場奏元議員

それでは、通告に従い、質問します。

私の住む地域には、思いきりボールを使って遊べる場所がありません。一色町内で最も大きい公園は一色地域文化広場ですが、私たち一中生はそこでボール遊びをすることができません。私たちが全力でボール遊びをすると、同じ公園で遊んでいる小さな子どもや高齢の方の迷惑になってしまうからです。

この広場より狭い公園でも、同じ理由によりボールを使うことができません。

私たち自身も「もっと体を動かしたいのに」と感じていますが、放課後は誰かの家に集まってゲームをすることが多くなってしまっています。やりたい遊びを、安全に思いきりできる場所が近くにないことが原因の一つだと思います。公園は誰でも平等に使う権利があるため、私たち中学生は他の年代の方の安全に配慮しなければなりません。このため、私たちを含めた全世代がともに安心して体を動かせる公園の必要性を感じています。

多世代がともに多目的に使える広い公園、具体的には、小中学生が安全にボール遊びをしたり、十分に体を動かしたりできる広さを確保しつつ、未就学児や高齢者の方も安心して利用できる設備を備えた公園が必要だと考えます。

そこで質問をします。

全力でボール遊びができる公園を整備していますか。

都市整備部長／片山佳隆

本市では、全力でボール遊びができる公園として、西尾公園の総合グラウンド、古川緑地、矢作川西尾緑地、みなとまち１号緑地、坂田球場、横須賀公園などを整備しています。

これらは、サッカーや野球といったボールを強く遠くへ飛ばす競技を安全に行えるよう、広い敷地と防球ネットなど安全施設を備えたスポーツ専用のエリアを有する公園でございます。

４番／一色中学校　安場奏元議員

ありがとうございました。

西尾市内には球技ができる場所が多くあることが分かりました。
続きまして、質問２に移ります。
一色地域文化広場などの現在ある公園に、防球ネットの設置をしませんか。

都市整備部長／片山佳隆

防球ネットの設置につきましては、先ほどお答えいたしました公園以外では、中学生の皆さんが、全力でボール遊びを行うために求められる広さを十分に確保することができておりません。仮に防球ネットを設置したといたしましても、限られた空間で周辺への配慮を要する環境が変わらない以上、ボールがネットを越えて道路や近隣の住宅へ飛び出す危険性が残っております。また、他の利用者がボールの直撃を受けるという安全上のリスクも、完全になくすことは困難でございます。

また、スポーツ専用施設とは異なって、多くの皆様がそれぞれの目的で、公園というのは滞在する場所でございます。結果として他の方々の利用を制限してしまう可能性がありますので、現時点では防球ネットを設置することは考えていません。

なお、一色地域文化広場は、かつてはボール遊びができました。ただ、最近、近隣住宅へのボールの飛び出し等のトラブルが発生しております。こういった状況を受けて、現在は公園の利用の安全性の確保を優先させていただきまして、けがをさせたり、物を壊したりするおそれのあるボール遊びを禁止させていただいております。どうぞ御理解をいただきたいと思います。

４番／一色中学校　安場奏元議員

ありがとうございました。
利用状況や目的の観点から、防球ネットの設置は難しいということが分かりました。
続きまして質問３に移ります。
誰もが安全に体を動かすことができる大きさで、かつ、多目的に 利用できる公園を一色地区に造りませんか。

都市整備部長／片山佳隆

都市整備部関係分についてお答えをいたします。
安場議員から御提案いただいたような、広大で多目的に利用できる公園が身近にあるとすれば、それは大変すばらしいことであると思います。
しかしながら、小さな子どもから御高齢の方までが安全に過ごせる空間と、皆さんが思い切りボールを飛ばせる広い空間を、１つの公園内に両立させるためには、相当な広さの土地が必要になります。それに加えて、防球ネット等の安全対策にも、多くの費用が必要になります。
本市の限られた予算の中で、一色地区をはじめ、市内のあらゆるところに、このような公園を新しく整備していくことは、非常に厳しいのが実情でございます。
まちづくりにおいては、皆様の身近な場所に何でも便利な施設を造ることは難しいと考えておりまして、今あるものを工夫して使っていただくことも必要となる現状について、御理解いただきたいと思います。

市内には多目的に利用できる公園として、古川緑地や矢作川西尾緑地、こういった公園がございます。全力でボール遊びもできる広さを、こちらの方は有しておりますので、一色地区からはちょっと距離はございますけれども、そちらまで足を運んでいただいて、どうぞ使っていただきたいと思います。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分につきまして、スポーツの視点でお答えをしたいと思います。

誰もが安全に体を動かすことができる大きさの多目的広場について、現在のところ一色地区では新たに施設を設置する予定はございませんが、一色地区には屋内施設として一色町体育館、一色Ｂ＆Ｇ海洋センターがございまして、屋外施設では、先ほども答弁がございましたが、坂田球場、坂田テニスコートがございます。多目的広場ではございませんが、それぞれの施設で様々なスポーツを全力で行うことが出来ますので御利用いただきたいと思います。

なお、一色地区にはスポーツクラブいっしきという総合型地域スポーツクラブというものがございまして、スポーツ・文化の振興に関する事業を行っております。様々なスポーツに取り組んでいまして、体験ですとか見学もできますので、一色町体育館に事務局がございますので、ぜひお尋ねをいただきたいと思います。

４番／一色中学校　安場奏元議員

ありがとうございました。

現状では公園の整備等は予算の関係上、難しいということが分かりました。また、西尾市内には体を動かすことができる場所が多くあることも知ることができました。

僕たちもできる限り工夫をし、愛される一中生となっていきます。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／幡豆中学校　岩根史弥議員

一色中学校、安場奏元議員の質問が終わりました。

次に５番目の質問者、東部中学校、新海夏芽議員。

５番／東部中学校　新海夏芽議員

それでは、通告に従い、質問します。

私の家の近くには安藤川があります。毎日登下校で見ている下流では、特にごみが目立ち、雨が降って水位や川の勢いが増しても流されず、長い間留まっているように見えます。その様子を見ると、川に生息する生物たちの生態系が心配になり、やるせない気持ちになります。

また、ごみが多いのは安藤川だけでなく、周辺の川でも同じような状況が見られます。川は道路に比べて清掃が難しく、ボランティアによる活動も限られるため、ごみがたまりやすいのではないかと感じています。

私はこれまでに何回か、町内会長さんや先生、友達と一緒に地域のクリーン活動に参加

しています。その中で西浅井町周辺の活動中に道路や歩道に捨てられたと思われるお菓子の袋やペットボトル、たばこの吸い殻などのごみが、風で飛んで畑や田んぼに散乱している様子を見かけました。しかし、私有地であるため勝手に回収することができず、土地の所有者が対応しなければなりません。道路沿いには常にごみが見られ、その負担は大きいと思います。

安藤川には多くの鳥が訪れ、私も通るたびに観察を楽しみにしています。生き物たちが安全に暮らせる環境を守るため、川や農地のごみを減らし、清掃活動を進めていくことが大切だと考えます。

そこで質問です。西尾市の河川の清掃について、市はこれまでにどんな取組みをしてきましたか。

建設部長／榊原茂春

この度は、川の環境に関心を持っていただきありがとうございます。西尾市では、みんなが安心できる川を守るために、主に２つの取組みを行っています。

１つ目は、川や海をきれいにしようと、みんなで一斉にごみを拾う川と海のクリーン大作戦です。毎年秋頃、町内会や小中学校などたくさんの方に参加をしていただき、矢作川の左岸堤防、西尾側や寺津漁港でごみ拾いの活動を行っております。昨年度は約1,200人の方に参加していただきました。

２つ目は町内会の皆さんと協力する河川愛護活動です。この活動は、自分たちの町の川をきれいにしたいという町内会の方々の活動を応援する制度で、市が管理している川で、草刈りやごみ拾いをしてくれる町内会などの団体に対して、市から報奨費をお渡ししております。昨年度は、11の町内会で、延べ約1,200人の皆さんが協力して活動してくれました。

なお、安藤川につきましては、管理している愛知県に確認したところ、定期的な見回りを行い、水の流れを阻害するような大きなごみを見つけられれば撤去しているそうです。また、自分たちの近くの川は自分たちできれいにしたいというお気持ちに応えられて、一部の区間では地元町内会の皆様に草刈作業などを委託しているそうです。

このように、市や県、そして地域の方々など、多くの人が協力して川の環境を守る活動をしていただいております。

しかし、皆さんが一生懸命きれいにしてくれる一方で、心ないごみのポイ捨てがまだまだ見られるのは悲しい事実です。川を汚さないということは、私たちが住みやすい街を保つために、とても大切なことです。これからも、川をきれいにしたいという気持ちを大切にしていただければうれしく思います。

ありがとうございます。

５番／東部中学校　新海夏芽議員

ありがとうございます。

続きまして、質問２に移ります。

道路沿いの畑や田んぼなど継続的にごみが捨てられてしまう場所に対して、何らかの対策はありますか。

環境部長／齋藤武雄

地域のクリーン活動への参加と御協力に対して、まずは深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

畑や田んぼなど私有地に捨てられたごみの処理につきましては、本来、不法投棄した人が責任を負うべきものですが、新海議員のおっしゃるとおり、誰が捨てたか分からない場合は、法律により、その土地の所有者あるいは管理者が片付けることになっています。このようなごみのポイ捨ては、地域の景観を損ねるだけでなく、悪臭や害虫の発生、農作物の生育にも悪影響を及ぼすなど、大きな問題であると認識しております。こうした場所への常時可能な対策の１つといたしましては、不法投棄禁止やポイ捨て禁止といった抑止力となる看板の設置があげられます。

現在、市では、継続的にごみが捨てられてしまうなど地域で困っている場所への対策として、ごみのポイ捨て禁止を呼び掛ける啓発看板を、御要望いただいた町内会へ配付しております。しかし、残念ながら看板を設置するだけでは完全に防ぐことが難しいというのが現実でございます。そのため、各地域で取り組まれている市民の皆様による清掃活動等は、ごみのポイ捨てされにくい環境を作る大きな力となっており、非常に大切であると考えております。

美しいまち、快適な環境は、市だけで作れるものではありません。新海議員をはじめとする市民の皆様一人ひとりのまちを愛する心や小さな行動が合わさることで、初めて実現するものと考えております。ぜひこれからも、ごみのポイ捨てがされにくいきれいな景観を保つために、地域の環境を良くしたいという気持ちを持ち続け、周りの友達にも広げていただき、多くの方が地域の清掃活動へ参加していただけることを期待しています。市といたしましても、引き続き、市民の皆様と協力しながら、快適で清潔なまちづくりを目指してまいります。

５番／東部中学校　新海夏芽議員

ありがとうございました。

続きまして質問３に移ります。

美しい自然を守るためには、市民みんなが環境問題に関心を持つことが必要だと思います。市として、子どもから大人まで楽しみながら環境について学び、行動できるようなイベントがありますか。あればその詳細を教えてください。

環境部長／齋藤武雄

環境イベントといたしましては、毎年12月にホワイトウェイブ21で環境ＷＡＶＥ21を開催しております。今年度も12月６日に開催を予定しております。

このイベントは、市民の皆様に環境に対する理解を深めていただくことを目的に、市民団体を中心に企業や市が連携して実施しております。主なイベントの内容といたしましては、リサイクルを推進するためのごみの分別体験やフリーマーケットをはじめ、企業の環境に対する取組みを紹介したり、関連品の展示、ステージイベントなど様々な催しを用意しており、子どもから大人まで楽しめるものとなっております。

また、西尾いきものふれあいの里では、身近な里山の自然に親しみ、自然のすばらしさ

を体感していただくことを目的に、子どもから大人まで参加できる体験型の講座を年間を通して開催しております。令和８年度は、里山を散策しながらカブトムシやクワガタなどの昆虫の探し方やつかみ方を学ぶ講座、竹林整備の方法やタケノコの生え方を学んだ後でタケノコ掘りを体験する講座、棚田で昔ながらの手植えによる田植えを体験し、米作りについて学ぶ講座をはじめ、27回の開催を予定しております。

その他、小学生とその保護者を対象とした環境学習講座を夏休みを中心に開催しております。令和８年度は、ＬＥＤの仕組みを学びながらランタンを作成する講座や、環境に優しい印刷について学びながらエコバッグ作りを体験する講座など、５回の開催を予定しております。

今後も、これらの取組を継続して実施していくことで、多くの市民の皆様の環境問題への関心を高めてまいりたいと考えております。議員におかれましても、ぜひ御家族や御友人とともに、講座やイベントに御参加いただけますと幸いです。

５番／東部中学校　新海夏芽議員

ありがとうございました。

西尾市には美しい川やまちを守るための様々な取組があることが分かりました。西尾市の川をきれいにしたいと考え、自分から清掃活動に取り組んでいる市民の方々がたくさんいるということに、胸が温かくなりました。

環境イベントや地域の清掃活動をとおして、西尾市の環境に興味を持つ人がさらに増えていけばうれしいです。私も豊かな自然を未来へつないでいくという意識を大切にしていきたいです。

議長／幡豆中学校　岩根史弥議員

東部中学校、新海夏芽議員の質問が終わりました。

次に６番目の質問者、佐久島しおさい学校、髙橋伊吹議員。

６番／佐久島しおさい学校　髙橋伊吹議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕は、佐久島で暮らし、佐久島で学んでいます。家族は漁師です。僕は、後期課程１年のとき、学校でアマモという海草のことやアマモの生息域を広める活動について学びました。

アマモを増やそうという取組は１人の島っ子の佐久島の海を豊かにしたいという思いから平成13年に始まったものです。平成18年にはボランティアを募集して活動がスタートし、これまで21年続いています。アマモを移植し、新しいアマモの群生地を作ると、小さな魚の隠れ家になったり、アサリが育ちやすくなったりします。アマモの群生地を少しずつ増やしていくことで、佐久島の海の環境が良くなるはずです。

僕は、アマモを増やすために、アマモボランティアへ参加しており、学校では総合的な学習の時間を使って、水槽でアマモの育成にも取り組んでいます。実際に水槽の中でアマモを育てるには、海と水槽の環境をできるだけ近付けなければならず、藻の対策や温度管理が大変ですが、漁業資源を増やす努力をこれからも続けていかなければなりません。

また、佐久島の漁業をこれからも守っていくためには、漁場の整備と同時に、漁港施設の維持・更新が必要です。実際に漁を営む私の家族も、堤防の老朽化や、船を停泊させる場所に溜まったヘドロについて、不安を口にしていました。

そこで質問をします。

アマモボランティアを募集するために、これまでどのように周知してきましたか。

交流共創部長／高須清和

髙橋議員御存じのとおり、佐久島のアマモ場再生活動の始まりは平成13年に遡ります。当時、佐久島中学校の１人の生徒が抱いた魚やアサリがいっぱい取れるように、佐久島の海をもっと豊かにしたいという想いから､アマモ調査や再生活動がスタートしております。この小さな一歩が後輩に受け継がれ、島民、漁師、島外ボランティアや企業の参加へと、現在では大きな輪に広がっております。

アマモボランティアの募集については、佐久島公式ホームページですとか、西尾公式ＬＩＮＥで告知をいたしまして、各新聞社などにも掲載依頼を行っております。

今年度のアマモボランティア活動は５回の開催予告に対しまして、合計480名の参加申し込みをいただきましたけれども、台風７号・８号の影響もございまして、６月27日と28日の活動は中止となりました。中止となりましたが、 ６月28日はプロバスケットボールチームのシーホース三河の選手が、アマモの移植活動を行うイベントを企画していただきまして､ファンクラブで募集をしたところ､定員を超える多くの応募があったと伺っており、今後もこのような企画を通じて、広く活動を周知したいと考えています。

６番／佐久島しおさい学校　髙橋伊吹議員

ありがとうございました。

再質問です。

アマモのことを多くの人に知ってもらうために､ポスターを作成し､多く の人の目に留まる市役所や駅などに掲示しませんか。

交流共創部長／高須清和

学校の皆さんの活動を出発点に現在は多くのボランティアの方々の活動によってアマモが以前より繁茂し、佐久島が豊かな海に戻りつつありますが、アマモが海や魚介類にとって、どれほど大切なものかを知らない人が多いという現状があると感じています。そのため、多くの人の目に留まる場所にアマモの大切さを伝えるようなポスターを掲示するという髙橋議員の御意見は理解できるところであります。

なお、髙橋議員を始めとした、しおさい学校の皆さんが佐久島の海を豊かにしたいという熱い想いをこめたアマモに関するポスターを作成して掲示しますと、より一層、見た人に対するアピール度が増すと考えますので、御協力をお願いしたいと思います。

また、掲示場所については髙橋議員の提案していただいた２箇所に加え、道の駅にしお岡ノ山など多くの観光客が立ち寄るようなところへの掲示も考え、啓発活動に努めてまいります。

６番／佐久島しおさい学校　髙橋伊吹議員

ありがとうございました。

これからも海のために努力していけたらと思います。

続きまして、質問２に移ります。

安全に船を停泊させるには、ヘドロの除去が必要です。西港では 平成３０年にヘドロの除去が行われていますが、前回行わなかった箇所について、再度、ヘドロの除去を行う予定はありますか。

建設部長／榊原茂春

西尾市では、管理している６つの漁港全てにおいて、ヘドロがたまって船の運航が難しくなるなど、困っている場所があるかを確認しながら、順番にヘドロなどの除去を行っております。

この作業には限りある予算を使っているため、今、どこが一番困っているかを地元の漁協の皆さんと話し合い、特に優先度が高い場所から作業を行うようにしています。

西港については、現在のところ船の運航に大きな支障はないと判断しておりますので、すぐにヘドロの除去を行う予定はありませんが、今後、漁協の皆さんと相談して、優先的に対応すべきという判断になれば、除去作業を進めていきたいと考えています。

６番／佐久島しおさい学校　髙橋伊吹議員

ありがとうございました。

これから先も、漁が安全にできればと思います。

続きまして、質問３に移ります。

アサリとりに行くときに島の北側の海岸線の道路を通りますが、コンクリートがはがれ、自動車や自転車が通るとき危険です。島民も観光客も通行しやすくなるように、道路を補修しませんか。

建設部長／榊原茂春

島民の方や観光客の方を思って、自ら気付いたことを伝えていただき、ありがとうございます。島の北側の海岸線の道路についてですけれども、管理している愛知県に補修について確認したところ、数年前に道路を長持ちさせるための工事は完了しており、現時点では補修の予定はないとの説明がありました。

しかし、今回、髙橋議員が危険だと声を上げてくれたことを伝え、教えくれた箇所を図面に印して改めて説明しましたら、一度現地を確認した上で、補修が必要な状態かどうか判断したいという返事をいただきましたので、引き続き愛知県と連絡を密にして、対応していきたいと思っております。

ありがとうございました。

６番／佐久島しおさい学校　髙橋伊吹議員

ありがとうございました。

難しいことも多くあることも分かりましたが、アマモボランティアの活動が広まってい

ることや、ポスターの作成など、検討していただけることもあると分かり、大変うれしいです。僕も佐久島に住む一人として、佐久島の海を豊かにするためにできることを考えていきたいと思います。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／幡豆中学校　岩根史弥議員

佐久島しおさい学校、髙橋伊吹議員の質問が終わりました。

ここでしばらくの間、休憩します。午後３時25分から再開します。

休憩　午後３時10分

再開　午後３時25分

広報広聴課長／牧原理恵子

学生議会を再開するにあたり、傍聴される皆様にお願いいたします。
携帯電話等はマナーモードにするか、電源をお切りくださるようお願いいたします。

議長／福地中学校　榎本莉彩奈議員

皆さんこんにちは。私は後半の議長職を務めさせていただく福地中学校の榎本莉彩奈です。よろしくお願いします。

それでは休憩前に引き続き、会議を開き、質問を続けます。

７番目の質問者、幡豆学校、岩根史弥議員。

７番／幡豆中学校　岩根史弥議員

それでは、通告に従い、質問します。

豊かな西尾市の自然と産業を未来へ残すため、今最も重要といえる課題がゼロカーボンです。

にしお未来創造ビジョンを見ると、太陽光発電の設置件数が2027年度の目標11,200件に対して、2020年は6,983件で、１年あたり600件ほど増やさなければいけない計算になっています。また、公共施設のＬＥＤ化による二酸化炭素削減量は2027年度の目標が4,251トンであるのに対して、2020年度は195トンですので、７年で約22倍の削減をする必要があります。この２つの指標は、現状値と目標値の乖離が大きく見えますが、目標達成はできるのでしょうか。

私は、これらの目標を達成し、市民と協力して活気あるゼロカーボンシティ西尾を築いていくことが、持続可能な街への第一歩であると考えています。その実現のため、次の２点提案します。

１点目は太陽光発電の設置を促すために、ＰＰＡモデルを市が中心となって普及させることです。これは事業者の負担で建物の屋根や敷地に太陽光パネルを設置し、利用者は使った分の電気代のみを支払う仕組みです。初期費用や管理の手間がかからず、災害時の非常用電源にもなるため、市民が太陽光パネルを導入する大きなメリットがあります。契約期間終了後は、設備がそのまま家に住んでいる人のものになるという長所もあります。

２点目は、エコ活動でポイントが貯まる環境アプリの開発です。エコバッグや公共交通機関の利用、ボランティア参加などでポイントが貯まり、西尾の特産品と交換できたり、市内施設で使えたりするようにします。アプリで個人のCO_2削減量を可視化したら、市民のモチベーションに繋がり、地域経済も活性化すると思います。

そこで質問をします。公共施設のＬＥＤ化の進捗状況はどのようですか。

環境部長／齋藤武雄

本市では、2022年度より公共施設のＬＥＤ化を計画的に推進しております。2025年度までの４年間で、市役所本庁舎、総合福祉センターを始めとする31施設のＬＥＤ化が完了したしました。

今後は、2026年度に西尾小学校を始めとする22施設、2027年度以降に平坂中学校を始めとする53施設の改修を 予定しており、2031年度までに主な公共施設のＬＥＤ化は概ね完了する見込みです。

ＬＥＤ化に伴う二酸化炭素の削減効果につきましては、2022年度から2025年度までの累計で3,633.0ｔとなっており、これに2026年度実施予定分165.7ｔを加えますと、累計で3,798.7ｔの削減を見込んでおります。

進捗状況といたしましては、2027年度の削減目標値、4,251ｔに対し、2026年度時点で約89.4％の達成率を見込んでおり、今後は、残る約10.6％の削減に向けて、引き続き計画的にＬＥＤ化を進め、カーボンニュートラルの実現を目指してまいります。

７番／幡豆中学校　岩根史弥議員

ありがとうございました。

続きまして質問２に移ります。

ＰＰＡモデルを活用して、西尾市として公共施設や一般家庭にソーラーパネルを普及させていく計画はありますか。

環境部長／齋藤武雄

本市といたしましては、ゼロカーボンシティの実現に向け、温室効果ガスの削減目標を定めた地球温暖化対策実行計画に基づいて、自然の力を利用した再生可能エネルギーの導入を進めています。公共施設や一般家庭への太陽光発電設備の普及についても推進しています。

議員のおっしゃるとおり太陽光発電設備の導入に当たって、ＰＰＡモデルは初期費用の負担を抑えることができる有効な導入手法の一つであると認識しております。

一方で、ＰＰＡモデルにおける事業者が設置した太陽光発電設備の設置費用というものは、一般的には契約した方が電気料金という形で長期にわたり負担することで回収をされます。契約期間全体の総費用では、設備を購入して設置した場合のほうが有利となる可能性もございます。また、途中で解約したときの違約金や、事業者の倒産リスクなど、契約上の課題も指摘されております。

今後の公共施設への再生可能エネルギーの導入に当たりましては、ＰＰＡモデルをはじめその他の太陽光発電の導入手法やバイオマス発電なども含めていろいろな可能性がある

と考えております。導入検討にあたっては、財政面や環境面に加え、災害時の非常用電源の確保といった防災の視点も踏まえながら、総合的に判断してまいります。

また、一般家庭については、現在、太陽光発電設備の設置に対する補助金の交付や太陽光発電設備の共同購入事業を通じて普及促進を図っています。一般家庭におけるＰＰＡモデルは、市民の皆様にとっての新たな選択肢となり、太陽光発電の普及拡大につながるものと考えております。

一方で、先程申し上げましたような課題もございます。そのため、市民の皆様には、ＰＰＡモデルの仕組みやメリットだけでなく、注意すべき点についても正しく御理解していただくことが重要であると考えておりま す。

今後は、ＰＰＡモデルに関する情報発信にも努め、各家庭の状況に合わせて最適な導入手法を選択できるような環境づくりを進めることで、西尾市における再生可能エネルギーの普及拡大を推進してまいります。

７番／幡豆中学校　岩根史弥議員

ありがとうございました。

質問３に移ります。

市民が楽しく参加できる、環境アプリを開発しませんか。

環境部長／齋藤武雄

エコ活動に対してポイントを付与する環境アプリは、市民の意識改革や行動変えるを促すとともに、ポイントの地域内利用を通じて地域経済の活性化にも寄与することが期待できる有効な手法であると認識しております。

現在、県内では愛知県や名古屋市において、こうした取組が進められており、西尾市におきましても、愛知県が実施をしますあいちエコアクション・ポイント事業について、公式ホームページ等を通じて参加を呼びかけているところでございます。この取組では、エコマーク商品など環境に優しい製品を購入するグリーン購入や、飲食店での食べ残しゼロなど、市民は日常生活における身近なエコ活動に応じてポイントを付与され、特典が得られる仕組みとなっております。

一方で、市独自のアプリ開発には多額の構築費や維持管理費を要するほか、効果を最大化させるための一定の利用者数を確保する必要があるという､こういう課題もございます。そのため、現時点では本市単独でのシステム構築はハードルが高いと判断しております。まずは愛知県の取組を最大限に活用し、広域連携のもとで普及を図ることが最適であると考えております。

引き続き、この取組みをより多くの市民の皆様に知っていただき、積極的に参加していただけるよう、周知・啓発活動に努めてまいります。岩根議員におかれましても、ぜひあいちエコアクション・ポイント事業に御登録いただけますと幸いです。西尾市内にはポイントを取得できる参加店舗が84店舗ございますので、ぜひポイントを貯めていただき、賞品の獲得を目指してみてください。また、そうしたご自身の体験をもとに、この事業を御家族や御友人にも広めていただけますと、少しずつではありますが、ゼロカーボンシティの実現に着実に近付けるものと思います。よろしくお願いします。

７番／幡豆中学校　岩根史弥議員

ありがとうございました。１点目の公共施設のＬＥＤ化について、現状と目標との差が大きく、不安がありましたが、現時点で目標の９割近くに達する見込みであると知り、とても心強く感じました。

２点目の太陽光発電については、契約上のリスクや課題も存在することが分かりましたが､海に面している西尾市にとって､災害時の非常用電源はとても大切な視点になります。長所、短所を踏まえて導入していくことをお願いします。

３点目のアプリについては、県で既に行っていることを知り、驚きました。市単独でのシステム構築はハードルが高いため、まずは既存の活動を推進していくという判断に強く納得しました。

持続可能なまちづくりに向けて、今後も事業に力を入れていっていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／福地中学校　榎本莉彩奈議員

幡豆中学校、岩根史弥議員の質問が終わりました。

次に８番目の質問者、吉良中学校、吉川陽葵議員。

８番／吉良中学校　吉川陽葵議員

それでは、通告に従い、質問します。

私は、西尾市が市内の人からも市外の人からも住みやすくて魅力あるまちだと思ってもらえる街になってほしいなと考えています。しかし現在、西尾市の中心部はにぎわっている印象を受けますが、私が住んでいる吉良地区をはじめ、一色地区、幡豆地区では人口減少が進んでいます。吉良地区には金蓮寺といった国宝や自然豊かな自慢のロケーションがあります。生まれ育ち、思い入れのある地区だからこそ、人口が減少していく現状は悲しいです。

人口減少が進む原因の１つとして交通機関が充実しておらず、移動が不便なことが挙げられます。私の自宅から最寄りの駅まで自転車でも15分ほどかかり、不便に感じます。高齢者は私よりもっと不便に感じると思います。同じ西尾市内でも発展に格差が生じているように感じます。

そこで私はいこまいかーをもっと活用できないかと考えました。いこまいかーは高齢者の利用を想定したサービスだと思いますが、西尾市の発展のために利用方法について提案したいと思います。まず、高齢者を利用の中心として想定していると思いますが、私の地区に住む高齢者はタクシーに乗って買い物に行ったり、一人で買い物をしたりすること自体が大変そうな方が多いです。また、若者の視点でいこまいかーの利用を考えるともっといろいろな場所に簡単に行けたらいいのにといったニーズがあるかと考えます。アプリを利用して気軽に予約できたり、娯楽施設やカフェなど、自由に行き先が選択できたりすると利用が広がるかなと思いました。また、市外の方も利用できるようにしてはどうでしょ

うか。
前述のように、吉良、一色、幡豆地区には魅力がたくさんあります。そういった場所に観光で西尾を訪れた観光客が簡単にアクセスできれば西尾市の発展につながると思います。また、経済がたくさん動くので、高齢者に対する支援の財源に充てることができるのではないでしょうか。
住みやすく魅力ある西尾市にするために質問をします。
いこまいかーは高齢者の利用を想定していると思いますが、年間でどの程度利用があるのでしょうか。また、いこまいかーを認知している西尾市民の割合はどのくらいでしょうか。

市民部長／味岡　淳

いこまいかーの利用実績についてお答えします。まず、令和７年度の利用実績ですが、年間で9,469人の方に御利用いただきました。
次に、どれくらいの市民の方がこの制度を知っているかという認知度についてですが、正確な数字を出すことは難しいのが現状です。
しかしながら、過去３年間の利用人数を比べてみると、令和５年度は6,942人、令和６年度は7,908人、そして令和７年度は9,469人と、年々増え続けています。
このことから、少しずつ市民の皆さんにいこまいかーの存在が知られ、利用が広がっていると考えています。
今後も、より多くの皆さんに便利に使っていただけるよう、広報にしおやＳＮＳなどを活用して、もっとたくさんの方に知ってもらえるようなＰＲ活動を続けてまいります。

８番／吉良中学校　吉川陽葵議員

ありがとうございました。
ＰＲ方法として、高齢者向けには町内の回覧板などを活用して、紙で広報活動をしつつ、若者に向けては、西尾市の公式アカウントなど、ＳＮＳを使ってＰＲしてくれるとうれしいです。
続きまして、質問２に移ります。
２、いこまいかーは便利ですが、普及させすぎてしまうと他の公共交通機関の利用者が減少するといった懸念点があると思います。西尾市としては今後どのようにバランスをとりつついこまいかーを普及させていくビジョンをもっていますか。

市民部長／味岡　淳

いこまいかーはタクシー車両を使ったサービスですが、好きな場所へ行ける通常のタクシーとは違い、目的地を最寄りの駅やバス停、または吉川議員がお住まいの吉良地区での公共施設や病院などに限定することで、安価に御利用いただけるものです。
議員御指摘のとおり、いこまいかーばかりが利用され、電車やバス、一般のタクシーに乗る方が減ってしまいますと、これまでの地域の公共交通を続けることが難しくなり、結果として街全体の移動手段が失われてしまう恐れがあります。
そのため、市としましては、いこまいかーを電車やバスを補完する公共交通として位置

付けています。電車やバスで行ける場所へは既存の交通機関を御利用いただき、いこまいかーは、ご自宅から駅・バス停までの移動や、公共交通機関では行きづらい公共施設や病院などへの移動手段として活用していただきたいと考えています。

このように相互の共存を図ることで、街全体の移動手段を守っていきたいと考えております。今後も電車や路線バスと連携しながら、より良い移動環境を整えてまいります。

８番／吉良中学校　吉川陽葵議員

ありがとうございました。

いこまいかーか公共交通機関、どちらかを選択するのではなく、組み合わせて使う想定があることがよく分かりました。そういった意識を市民の方に持ってもらうことが大切なのかなと感じました。

続きまして、質問３に移ります。

３、高齢者支援はいこまいかーではなく、別のアプローチにするとして、いこまいかーの利用を若者向けにする構想はありますか。そういった場合、アプリとの提携などを考えているでしょうか。

市民部長／味岡　淳

いこまいかーの活用について、御提案ありがとうございます。

まずは、いこまいかーの目的について御説明いたします。

このサービスは、年齢に関わらず交通手段を持っていない方を支えるためのものです。そのため、免許を返納された高齢者の方だけでなく、まだ免許を持っていない中学生や高校生など、家から駅やバス停が遠くて移動に困っている方にとって、「いこまいかー」はとても大切な移動手段だと考えております。

市としましては、いこまいかーを若者向けに限定するという考えはありませんが、交通手段を持たない若い世代の皆さんにも、ぜひ利用していただきたいと考えています。

次に、御提案いただいたアプリとの連携というアイデアですが、特に若い世代の方々にとっては、便利で魅力的な考え方であると思います。本市におきましても、一色地区で運行している相乗りタクシーでは、既にＬＩＮＥでの予約を可能とするなど、一部で先行した取組を実施しているところであります。

今後、いこまいかーをさらに利用しやすくするため、アプリとの連携など様々なアイデアにつきまして、ぜひ吉川議員をはじめとする若い方々からも御提案いただけますと幸いです。

８番／吉良中学校　吉川陽葵議員

ありがとうございました。

市政としては、いこまいかーを交通弱者である高齢者や若者など幅広い世代に使ってほしいという願いがよく分かりました。交通手段を持たないたくさんの人に利用してもらえるよう、紙媒体やＳＮＳなどを使って広報活動をお願いします。

私自身はまだいこまいかーを利用したことはありませんが、高校生になった際に、電車やバスで通学する可能性があります。自宅から公共交通機関を利用するまでの通学手段と

して利用してみたいと思いました。ただ、個々がいこまいかーを要請すると、タクシーの台数など制限があって難しいと思うので、少し大型のマイクロバスのようないこまいかーに乗り合わせで乗るといったことも今後視野に入れていただけるとうれしいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／福地中学校　榎本莉彩奈議員

吉良中学校、吉川陽葵議員の質問が終わりました。

次に９番目の質問者、西尾中学校、宮村悠生議員。

９番／西尾中学校　宮村悠生議員

それでは、通告に従い、質問します。

私は、テレビのニュースや学校の授業を通して、スマートフォンと健康との関係について学びました。スマートフォンは勉強や情報発信に役立つ便利な道具ですが、使い過ぎると脳への悪影響や睡眠の質の低下、運動不足につながることを知りました。

昨年度、西尾中学校で行われた学校保健委員会では、中学３年生の40％以上が平日１日３時間以上も使っているという結果が示されており、改めてスマートフォンの使い過ぎが健康に悪影響を及ぼしていると感じています。これは、私の周りにいる大人にも共通する課題だと思いました。

また、幅広い世代が地域で関わり合うことも大切だと考えており、全世代でこの問題を改善するために、子どもから高齢者まで誰でも楽しめるスポーツ大会を開催してはどうかと考えました。競技は、玉入れやボッチャなど誰でも気軽に参加できる内容とし、ポスターやイベントアプリを活用して参加者を募集します。また、参加者には西尾市の特産品のクーポンを配付するというのはどうでしょうか。

それと同時に、イベント会場までスタンプラリーができるウォーキング企画を実施したり、会場に西尾グルメキッチンカーを呼んだりします。こうした取組は、子どもから高齢者まで地域の幅広い世代が関わり合うきっかけとなり、参加者は健康づくりだけでなく、改めて西尾市の魅力に気付くことができます。このようなイベントを通じて、市民が楽しく体を動かし、スマートフォンとの上手な付き合い方を考えるきっかけになればよいと思います。

そこで質問をします。今までに、子どもから高齢者までを対象にしたスポーツ大会を開催したことがありますか。

交流共創部長／高須清和

子どもから高齢者までを対象としたスポーツ大会につきましては、スポーツ推進委員という会があるのですけれども、そこ主催で誰でも気軽に参加できるスポーツ大会を毎年開催しております。昨年度はボッチャ大会とファミリーバドミントン大会を開催しております。ボッチャなどのニュースポーツは、多世代交流のきっかけとして大変注目されておりまして、今後も継続開催していく予定としています。

今年度については、来年の２月６日にボッチャ、ファミリーバドミントン、ピックルボールというニュースポーツの３種目で大会の開催を予定しておりますので、ぜひ御参加を

いただきたいと思います。

９番／西尾中学校　宮村悠生議員

ありがとうございました。

多世代交流のスポーツ大会が継続的に開催されていることを知り、ぜひ参加したいと感じました。このような大会において、ウォークラリーを同時に開催することで、多世代での交流を深めることができ、さらに楽しめるスポーツ大会になると思います。スポーツ推進委員会の皆さんにも提案していただきたいと思います。

続きまして質問２に移ります。

スポーツ大会の参加賞として、既に普及している公式ＬＩＮＥをとおし、市内のお店などで使用できるクーポンを配布しませんか。

交流共創部長／高須清和

スポーツ大会の参加賞として市内の店舗で使用できるクーポンの配布につきましては、スポーツ大会に参加することによる、心身のリフレッシュにつながりまして、市内の店舗で提供している本市の特産品ですとか、おいしいグルメを楽しむこともできる、同時にできる、地域のお店も元気になれる、一石三鳥のすばらしい提案だと思います。本市でも公式ＬＩＮＥを通したデジタルクー ポンの実績はございまして、今後のイベント企画の貴重な提案として、参考にさせていただきたいと思います。

９番／西尾中学校　宮村悠生議員

ありがとうございました。

クーポンの配布をとおして、西尾の特産品を扱うお店に利益が出るだけでなく、参加者も得をすることができます。西尾市民が西尾のお店で活発に消費活動をする循環ができれば、西尾の発展にもよい影響を与えると思いました。

続きまして質問３に移ります。

公式ＬＩＮＥなどのアプリでウォークラリーやスポーツ大会などの参加記録が保存できるアプリを作成しませんか。

交流共創部長／高須清和

自分の頑張りが記録として残る、スタンプが貯まるという仕組みは、モチベーションを保つためにとても大切なことだと思います。

現在、西尾市では愛知県と協力してあいち健康プラスというスマートフォンアプリを使いました健康にしおマイレージ事業を行っております。

このアプリを使うと、毎日の歩数ですとか、スポーツ教室への参加記録が保存できまして、ポイントが貯まると県内の協力店で使えるまいか優待カードというものがもらえる仕組みになってございます。

健康にしおマイレージ事業は、成人の市民の皆さんの健康づくりを応援するために西尾市の健康課というところで進めてきた事業ではございますが､宮村議員の御提案をもとに、

若い世代に向けた対象者や対象イベントの拡大を検討するとともに、事業そのもののＰＲも図っていきたいと考えています。

このほか、新たなアプリの作成は考えておりませんが、今あるアプリやＬＩＮＥの機能をさらに楽しく、使いやすく進化をさせまして、子どもから高齢者までわくわくしながら参加できる仕組みができればと思っております。

９番／西尾中学校　宮村悠生議員

ありがとうございました。

本日は学生議会という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。今回の交流共創部長／髙須清和様との答弁をとおして、西尾市には魅力あるスポーツイベントがたくさんあることを知り、西尾市への愛がさらに深まりました。

また、スポーツで市民の健康づくりを応援するためには、楽しく運動すること、多世代や地域との交流を深めること、人情あふれる市にすることが大切だと感じました。西尾中学校では縦割り活動というものがあり、他学年と交流できる機会がたくさんあります。私は西尾中学校の最高学年の一員として、西尾中学校がさらに発展できるように、これからも努力していきます。そして、その経験を生かして、将来私たちがさらによい西尾市を作り上げていきます。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／福地中学校　榎本莉彩奈議員

西尾中学校、宮村悠生議員の質問が終わりました。

次に10番目の質問者、寺津中学校、倉内拓真議員。

10番／寺津中学校　倉内拓真議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「持続可能な西尾市に向けて」です。

私は、西尾市や寺津地域に、もっと多くの人が集まり、これからも発展していってほしいと考えています。そのために、観光業に力を入れることや運動施設を拡充することが大切だと思います。そこで２つ提案します。

１つ目は、寺津の観光名所の魅力を発信することです。西尾市には、年間約400万人の観光客が訪れています。しかし、私が住んでいる寺津地域では、観光客をあまり見かけません。西尾駅周辺には抹茶のお店があり、一色町には魚市場がありますが、寺津地域には観光客が集まる場所が少ないように感じます。

例えば寺津地域には、枯木宮貝塚という愛知県の指定文化財があります。西尾市が保管している出土品などを活用して、枯木宮貝塚の歴史や魅力を伝える施設をつくってはどうでしょうか。寺津にしかない魅力を発信することで、観光客が増えるきっかけになると思います。

２つ目は、運動施設を充実させることです。西尾市にはきららテニスコートという立派なテニスコートがあります。自分もテニス部としてきららテニスコートを利用した際に、

とてもいいテニスコートだと感じました。このような立派な運動施設を増やし、西尾市を盛り上げるのはどうでしょうか。

また、スポーツほどではなく、日常的に体を動かすことができる場所を増やしてほしいです。例えば、ボール遊びのできる公園などを寺津地域や西尾市内にもっと増やすことで、市民の健康寿命も延び、より持続可能な西尾市になると考えています。

そこで２つ質問します。

１つ目、寺津地域に観光客が増える施設などを設置する施策は何か考えていますか。

教育部次長／犬塚佐重喜

観光振興も総括して教育委員会が答えさせていただきます。

寺津地域の文化財を生かした観光振興について、地元ならではの視点から貴重な御提案をいただき、ありがとうございます。

倉内議員のおっしゃるとおり、寺津中学校のグラウンドの下に眠る枯木宮貝塚は、東海地方を代表する縄文時代の貝塚の一つであり、愛知県の史跡にも指定され、当時の人々の生活や文化を知ることのできる、大変貴重な遺跡です。出土品の一部は、現在、西尾市資料館の常設展示コーナーで紹介しています。

さて、観光で人を呼ぶには、全国の観光地の中からここに行きたいと選ばれなくてはなりません。そして他にはない魅力、そこまでのアクセス、受け入れ態勢、情報発信のほか、ターゲット層や地域住民の理解など多くの要素が絡むとともに、費用対効果なども考え、総合的に判断して成功に導くのが、観光振興の重要な考え方となります。 枯木宮貝塚は、素晴らしい遺跡です。しかしながら、縄文時代の重要な遺跡は枯木宮貝塚の他にも全国各地にあります。

したがいまして、多くの観光客を呼び込むことは難しいと思われます。そのために新しい施設を作ることは、現状では考えておりません。

寺津地域には枯木宮貝塚以外にもたくさんの魅力があります。知恵伊豆と言われた松平伊豆守信綱を輩出した大河内松平家ゆかりの寺社を始め、その居城だった寺津城址、浄名寺の円空仏、常福寺の大仏さん、常楽院の閻魔様などが、そして西尾市全体を見渡してみても原始から近代に至るまで、魅力的な歴史資源がたくさん残されています。どのようにすれば、それらの魅力が人々の心に届くのか、教育委員会でも効果的な活用を模索しています。

倉内議員始め寺津中学校や地域の皆さんも、ぜひ、寺津の新たな魅力の発見や情報発信に力を貸していただき、寺津ならではの良さを多くの方に届けていただければと願っております。よろしくお願いいたします。

10番／寺津中学校　倉内拓真議員

ありがとうございました。枯木宮貝塚だけではなく、寺津地域には様々な歴史資源があることが分かりました。新しい施設を作るだけではなく、今ある魅力を発見し、効果的に発信していくことが大切だと思いました。

続きまして質問２に移ります。

２つ目、寺津地域をはじめ、西尾市全体に運動施設やボール遊びのできる公園など、日

常的に体を動かすことができる場所を拡充する予定はありますか。

都市整備部長／片山佳隆

都市整備部関係分についてお答えをいたします。

倉内議員のおっしゃるとおり、日常的に体を動かすことができる場所を拡充していくことは、市民の健康づくりのために大変重要な視点であると認識しております。

しかしながら、運動施設やボール遊びのできる大規模な公園、こういったものは、市内の広い範囲から多くの方が集まる拠点として整備するものでありまして、日常的に使う身近な公園、こういったものとは役割が異なっております。そのため、市内の各地域にそれぞれ整備するような性質のものではないと考えています。市といたしましては、今ある運動施設などを有している公園の活用を基本としておりまして、現時点では拡充する予定は今のところございません。

思い切りボール遊びがしたい場合は、ちょっと遠い場所にはなるかとは思いますが、みなとまち１号緑地ですとか西尾公園、こういった公園を、既に整備されておりますので、こういった大きな施設まで足を運んで御利用いただきたいと思っております。

一方で、今ある身近な公園につきましては、柔らかいボールなどでのキャッチボールなどを含めて、日常的に体を動かすことができる環境として、少しでも安全に使っていただくための工夫を進めております。

例といたしまして、寺津地区の寺津４号公園においては、町内会からの御要望を受け、ボールや子どもが道路へ飛び出すのを防ぐために、周りをネットフェンスがあるのですけれども、そちらをもうちょっと追加することをしていく予定でございます。

このように今ある身近な公園を、工夫を加えていくことで、皆様が日常的に体を動かす場所として、これまで以上に安心して御利用いただけるようにしていきたいと思います。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分について、お答えをさせていただきます。

西尾市では、令和３年４月にスポーツ都市宣言をしまして、スポーツで元気になるまち西尾を推進しております。そして、市内のスポーツ施設の整備活用方針につきましては、令和５年３月に策定したスポーツまちづくりビジョン2040という計画がございますが、そちらに基づきまして、整備ですとか統廃合を進めていくことにしております。

現在、寺津地域では新たなスポーツ施設を整備する予定は、今のところございませんが、市全体としては、議員に御利用いただいた西尾市きららテニスコートに始まりまして、屋内温水プール、陸上競技場、体育館、野球場などを整備する計画となっております。今年度は旧一色町役場跡地に整備予定の屋内温水プールの設計に着手いたしまして、令和12年４月の開業を目指して事業を進めているところでございます。

寺津地域から比較的近くにございますので、完成した際には御利用いただけるとうれしいです。よろしくお願いします。

10番／寺津中学校　倉内拓真議員

ありがとうございました。新しい施設を整備するだけではなく、現在あるスポーツ施設

や公園を活用したり、安全に利用できるよう工夫することで、体を動かすことができる環境を作っていくという考え方が分かりました。

本日の答弁をとおして、寺津地域や西尾市には、地域のことをよく考えて、よりよくしていくために、様々な取組や考えがあることが分かりました。私たちも寺津地域や西尾市の魅力についてさらに知り、そのよさを多くの人に伝えるなど、自分たちにできることを考えていきたいです。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／福地中学校　榎本莉彩奈議員

寺津中学校、倉内拓真議員の質問が終わりました。

次に11番目の質問者、平坂中学校、牧伽音議員。

11番／平坂中学校　牧伽音議員

それでは通告に従い、質問します。

私は一昨年から、「清走中」というボランティア活動に参加しています。これは、一色のさかな広場などで、ゲーム感覚で楽しくごみ拾いを行う取組みです。現在、西尾市の家庭ごみ排出量は県内でも下位に位置しており、2022年までは９年連続でワースト１位でした。2021年には、１人１日あたり623gの家庭ごみが出ており、これはバナナ３から４本分に相当します。順位は改善したものの、依然としてごみの多さは課題です。そこで、可燃ごみの中身を調べてみると、約４割が紙やプラスチックなど、本来リサイクルできるものでした。資源として活用できるものが、ごみとして処理されている現状があります。また、ごみが増えると、燃やした後の灰が増加し、最終処分場の不足を招く恐れもあり、このままでは全国の埋立地が約25年で満杯になるとも言われています。

第３次西尾市環境基本計画を策定したときの小・中学校を対象としたアンケート調査では、約86％の中学生がごみはきちんと分別して捨てていると答えています。一方で、分別を徹底できない理由として方法が分からない、手間がかかるなどの声を私は聞いたことがあります。

私は親が納豆のパックなどを洗ってリサイクルに出したり、使った油を石鹸として再利用したりしているので、どうしてリサイクルが進まないのか不思議に思っています。

そこで質問します。

西尾市のごみ埋立地は、あとどのくらいで満杯になる見込みでしょうか。

環境部長／齋藤武雄

まずは、牧議員、自分たちの住むまちのごみについて、関心を持っていただき、ありがとうございます。

現在、西尾市には、一色、幡豆、吉良及び平原の４か所の埋立場が稼働しています。満杯になる時期でございますが、おおむね一色が令和11年度、幡豆が令和18年度、吉良が令和23年度、そして一番長く使える平原が令和50年度、あと43年で満杯になる見込みでございます。

この予測は、令和６年度に作成したものでございます。今後予測以上にごみが増えれば、埋立場の寿命はもっと短くなりますが、ごみが減れば、寿命は延びることとなります。

今ある場所を少しでも長く使うために、一人ひとりのごみを減らす意識と行動が、とても大切となってまいりますので、皆様もごみの減量に、ぜひ御協力をお願いいたします。

11番／平坂中学校　牧伽音議員

ありがとうございました。

西尾市の埋立場が、この調子でごみを捨て続けると、あと早くて３年、遅くても50年ももたないことが分かりました。この事実を私だけでなく、周りの人などにも知ってもらって、みんなで少しずつごみのリサイクルなどを行い、暮らしていきたいと思いました。

続きまして質問２に移ります。

分別方法が分からないといった声がある中で、市は、どのように分別方法を市民に周知していますか。また、その効果は出ていますか。

環境部長／齋藤武雄

ごみ排出量の削減は、未来の環境を守る大きなテーマで、本市にとっても重要な課題のひとつです。ごみの減量を進めるためには、市民一人ひとりがごみ分別に対する理解と行動が不可欠となってまいります。現在、市では、主に３つの取組みにより、市民の皆様へ分別方法を周知しています。

１つ目は、スマートフォン等で手軽に分別方法が確認できるよう、市公式ウェブサイトはじめ、西尾市公式ＬＩＮＥアカウントなどのＳＮＳを活用し、情報発信しています。中でも、ごみ減量課公式インスタグラムでは、正しい分別方法だけでなく、分別の迷いやすい品目を取り上げ、実際に市の職員が作業しながら分かりやすく解説するショート動画を作成し公開しています。また、公式インスタグラムなどでは、いつでも、気軽に質問していただき、その都度、市民の皆様に、分からないという疑問にタイムリーに応える取組も行っています。ぜひ、御家族の皆様にもお伝えいただき、ごみ減量課公式インスタグラムをフォローしていただければ幸いです。

２つ目でございます。紙媒体のごみと資源物の分け方・出し方ガイドブックを作成しております。市内の全世帯へ配布しております。手元に置く保存版として活用いただけるように、文字による解説は最小限に留めて、日常生活で実際に出るごみの写真やイラストを効果的に使うなど、分かりやすい紙面構成を心掛けております。また、外国人世帯に対しましては、転入時に多言語版のガイドブック概要版などを配付するとともに、地域つながり課の窓口で行っております生活ルールについて理解を深めていただく生活オリエンテーションというものの中で、分別ルールを説明するなど、ごみ出しマナーの周知徹底に努めているところでございます。

最後に３つ目でございますが、町内会や各種団体、学校や企業等からの御要望に応じ、市職員が直接地域へ伺って、ごみの減量や分別方法を伝える出前講座を実施しています。説明だけでなく、分別ゲームやクイズを実施するなど、参加者に合わせて、ひと工夫することで、分別方法の普及、周知に努めています。

牧議員のおっしゃるとおり、本市の家庭ごみ１人１日当たりの排出量は、平成26年度か

ら令和４年度までの９年間、県内の市でワースト１位でありました。そこで、市では、可燃ごみの約４割がリサイクル可能な紙類等であるという分析に基づいて、令和２年７月より、それまで燃えるごみに出していたビニール付の窓付き封筒やティッシュの箱なども資源物の雑がみとして分別徹底していただくことを市民の皆様に呼びかけ、ごみの減量を目指してきました。そのおかげもあり、家庭から出るごみの排出量は、令和２年度をピークに減少傾向が続いており、令和５年度にはワースト１位から脱却することができました。これは、市民の皆様が日々、丁寧に分別に取り組んでくださった結果であり、まさに分別方法を周知してきた効果であると考えております。

牧議員はじめ中学生の皆さんも、ぜひ分別に協力していただいて、分別の判断に迷うものがあれば、気軽にごみ減量課までお問い合わせをください。

11番／平坂中学校　牧伽音議員

ありがとうございました。

ごみを捨て続けることの重大さを今回知ることができました。また、西尾市がごみ削減に向けて、どんな方法で市民に周知をしているかが分かりました。これからも清掃中などの活動をとおして、自分や周りだけでなく、たくさんの人に楽しくごみ拾いをしてもらう過程でごみの現状をもっと知ってもらいたいと思います。ほかにも、ごみと資源物の分け方・出し方ガイドブックから、家や学校で簡単にできるものも多くありました。学校などの場所でもっとごみを分別したり、ごみの分別方法を学んだりすることができる場が増えれば、ごみの削減につながると思いました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／福地中学校　榎本莉彩奈議員

平坂中学校、牧伽音議員の質問が終わりました。

以上で本日の日程は、全て終了しました。

これをもちまして、西尾市学生議会を閉会します。

広報広聴課長／牧原理恵子

皆さん、ありがとうございました。また、長時間にわたり大変お疲れさまでした。

それでは、ここで教育長から講評があります。

教育長／稲垣　寿

教育長の稲垣です。11名の中学生議員の皆さん、ただいまは堂々とした立派な質問をありがとうございました。各中学校の代表として、その仕事を見事に果たされたというふうに思います。この本物の議場で、市長さんはじめ、西尾市の幹部の方たちに向かって自分の考えを発表することができて、緊張もあったと思いますが、充実感も得られたのではないかというふうに思います。

皆さんは、この市議会のテレビ中継を見たことがあるでしょうか。間もなく９月議会が始まりますが、そこでも今日、皆さんがしてくれたように、市民の代表である市議会議員の方たちが、理事者というのはこちら側に座っている市長さんはじめ、答えてくださった

部長さん方でありますが、その方たちに向けて様々な質問をして、西尾市民が幸せに暮らしていくためには、どうしていったらよいかを一生懸命話し合っています。西尾市を豊かにし、住みよいまちにするために、産業振興や福祉、環境問題から災害対策など、ありとあらゆる課題を洗い出して、その解決に向けた協議をしています。つまり、議会の仕事というのは、西尾市の未来をつくっていくことになりますから、極めて重い責任を持っているわけであります。この議場がこんなふうに大変重厚で厳粛な雰囲気に満ちているのは、そのような理由からであります。

そして、市長や市議会議員が選挙で選ばれるのも、西尾市の未来を決める重大な仕事を任せられる、信頼できる人を西尾市民全体で選ぶためなのであります。

本日、皆さんは各学校の代表として一生懸命、西尾市のことを考えて質問や提案をしてくれました。理事者側の答弁には、皆様からの要望を叶えられない厳しい回答もあったと思います。しかしそれは、理事者側も中学生だからという手加減は一切なく、全く本物の議会と同じように各議局で検討し、市長の最終決裁を経て、回答したものだからであります。

実際、今までには、ここでの皆さんの提言が西尾市が進める事業に反映したり、あるいは企業のアイデアとして採用されたものもあります。ですから、本日皆さんが受け取った回答は、掛け値なしの本物なのであります。

間もなく２学期が始まります。各学校では、アントレプレナーシップの活動がスタートしつつあることと思います。３年生の皆さんには、ぜひとも今回の経験も踏まえ、学校内や身の回りの様々な課題に気付き、それを解決するための方法を考え、仲間とともに実践してほしいと思います。

そして、将来、西尾市の未来、日本の未来を担っていく人になってください。

11人の中学生議員の皆さんに、大きな期待と今後の活躍を願って指導講評といたします。

本日は各自重責を果たされ、誠に御苦労さまでした。

広報広聴課長／牧原理恵子

最後に、中村市長からお礼の挨拶を申し上げます。

市長／中村　健

11人の学生議員の皆さん、お疲れさまでした。皆さんがこの場で堂々と自分の意見を話している姿ですとか、僕たちの話すことを真剣なまなざしで聞いている姿を見まして、とても感動しました。

以下、１つずつ簡単にコメントをさせてもらいます。

まず、１番、鶴城中学校の仲原そよ香さん、西尾駅をより明るくということで、発言の中でもありましたけれども、西尾駅というのは、西尾市の顔となるエリアであって、そこのおいでっきが少し暗い状況であるというのは、市としてもいいことだと思っていませんので、シャイニングプロジェクトという言葉が出てきましたけれども、それをまず着実にやることによって、少しでも明るい空間にしていければというふうに思っています。ありがとうございました。

２番目、福地中学校の榎本莉彩奈さん。道路（自転車道）の整備についてということで、

今のシステムだと、雑草の除去とか道路の舗装とかというのは、町内会さんから要望を受けて対応するというのが主な窓口になっています。ただ、普段歩くことが多い人と、自転車に乗ることが多い人と、車に乗ることが多い人というのは、同じ場所を走っていても見える景色が違うはずなのですよ。町内会からの意見も確かにいろいろいただいているけれど、多分、自転車に乗っている人の意見というのは、あまり僕らのところに届いていないだろうというふうに思っています。そういった中で、学生の皆さんからすると、自転車というのが一番大きな移動手段になるので、そこに対してまず皆さんの意見をしっかりと聞かせていただくということをやっていきたいというふうに思っていますので、その意見を聞いた上で､実際のそういった道路の整備につなげていければというふうに思っています。ありがとうございました。

３番目、にしお特別支援学校の田村魁斗さん。車椅子でも気軽に外出できるまちにということで、今、日本全体で共生社会を実現していきましょうということはすごく言われています。共生社会というのは、障害があるなしだとか、国籍が日本人なのか外国人なのかとか、そういうことの違いに関係なく、みんなが豊かな生活を送っていけるようにしましょうということになります。ハード面のバリアフリーも確かに僕は大事だと思うのですけれども、答弁の中で言わせてもらったように、心のバリアフリーというのがすごく大事だというふうに思っています。特にヨーロッパはそういうのがすごく進んでいて、逆にハードの整備というのは、別に日本が遅れているわけでは決してないのです。ただ障害者の方に対して、どう接すればいいのかみたいなものが、少し戸惑ってしまっている人というのが多分いるのだろうというふうに思うので、そういった心のバリアフリーを取り払って、コミュニケーションをとれるような社会をどうしていくかというのが多分すごく大事で、そのために僕らが啓発活動をやっていくということはすごく大事な役割だと思うので、そこはしっかりやらせてもらいたいのと、あとは残念ながら障害を持っている方が、どういったところに困っているかというのが、なかなか想像力だけでは分からない部分もありますので、障害者の立場から、こういったことをしてほしいというのを、しっかり声を届けてもらうというのも、これからも大事だと思うので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

４番目、一色中学校の安場奏元さん。多世代交流につながる多目的公園の整備についてということで、全力でというところがすごく気持ちが伝わってきました。実際、中学生の皆さんからすると、特に男子は大人と同じくらいの力が出るようになる一方で、免許ないし、結構、移動範囲が限られるではないですか。そうすると、なかなか満足に遊べる場所がないというのは、すごく申し訳ないなという気持ちはあります。ただ、なかなかそういった中学生の皆さんが、力いっぱい遊べる場所を身近なところで作っていくというのが、現実的に結構難しいので、どうしても機能を分けるということが合理的な話だというふうになってしまいます。ただ、そういった公園とかスポーツ施設というものについては、整備を望む、希望する声が多いので、そういったところは着実につくっていけば、少しでも皆さんがそういった身近でできる環境というのはつくっていけるというふうに思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

５番目、東部中学校の新海夏芽さん。河川や田畑のごみについてということで、まずは地元のクリーン活動に参加を何度もしていただいているということで、どうもありがとう

ございます。今大リーグに行っている野球の大谷選手がグラウンドでごみを拾っているというのは結構有名な話だというふうに思うのですけれども、なんでそれをやっているかというのは幾つか説があるのですけれども、一個有力な説の中に、ごみが落ちているというのは、多分誰が見ても気持ちの良いことではないではないですか。それを見て見ぬふりをして、いなくなることもできるけれども、それは多分気持ちの中で、気持ち悪さが残りますよね。自分がやらなくても誰かが拾ってくれるかもしれないけれども、拾ってくれないかもしれない。でもごみがきれいになったほうがいいというのは、みんな分かるわけではないですか。だったら多分、自分で拾ったほうがいいよねということで、大谷選手はやっているみたいなんですよ。だから、ごみを拾うことに特別な理由を求めてしまうと、なかなか理由を伝えるのは難しいのですけれども、やはりみんなきれいなまちがいいよねという中で、自分がそれを率先して活動することによって、少しでもきれいになるというところに、共感の輪を広げていくということが大事だと僕は思っています。今、町内会とかでクリーン活動をする以外にも、個人とか団体でボランティアでごみ拾いとかをやってくれている方々が実は増えていて、そういう団体の活動に高校生とか大学生とかが一緒に参加してくれることも増えているみたいなんですよ。それをＳＮＳなんかでも発信しているので、皆さんがまだ中学生だと、自分の住んでいるところから遠いところは難しいかもしれないですけれども、これから例えば高校とか行ってもう少し移動範囲が広がると、そういった活動に顔を出してもらえると、多分皆さん喜ぶと思いますし、西尾のまちがもっときれいになっていくので、そういった活動に参加するということも考えてもらえるとうれしいなというふうに思いました。ありがとうございました。

６番目、佐久島しおさい学校の髙橋伊吹さん。佐久島の海についてということで、佐久島に来る観光客というのが、年間10万人前後いらっしゃるのですけれども、どこに魅力を感じているかというと、やはり佐久島の自然風景にすごく魅力を感じている方々が多いですし、やはり佐久島の自然というのが非常に大切な財産だなと僕自身も思っています。その中で、アマモの移植活動というのは、要は佐久島の環境を守るために、ただ言葉だけ説明するのではなく、一緒に体を動かしてやってもらうということですよね。そういう共通の体験をするということが僕はすごく大事だと思っていて、ただ情報として知っているだけではなくて、自分も体を動かして活動することによって、より佐久島に対する愛着がわいたりだとか、環境に対する重要性が高まるというふうに思うので、これからもそういったアマモ活動をはじめとして、そういういろんな人を呼び込みながらファンを増やしていくということをやって、佐久島の環境を守っていきたいというふうに思っています。どうもありがとうございました。

７番目、幡豆中学校の岩根史弥さん。ゼロカーボンシティの実現に向けてということで、このゼロカーボンシティが必要とされているというのは、地球が温暖化してきている中で、例えば地球の温度が上がってしまうと、生態系にも変化が出たりだとか、いろいろ影響が大きいので、その温度が上がるのを少しでも抑えるために、ＣＯ２の排出を減らしましょうねというのが理由なのですけれども、正直それを聞いても、自分の生活にどう関わってくるかというのが、なかなかピンとこないと僕は思っています。そういった中で、そういった義務感だけに頼るのではなくて、やはり楽しみながら活動できる仕組みをつくるということが、輪を広げるためだとか、長く継続的にやるためのポイントだと僕は思っていて、

そのためにアプリの充実というところを提案してくれたというのはすごくいい観点だというふうに思っています。なので、市といたしましても、そのアプリの充実も含めて、楽しみながらやっていけるような仕組みというものを作っていきたいというふうに思っています。ありがとうございました。

８番目、吉良中学校の吉川陽葵さん。いこまいかーを利用した西尾市の展望についてということで、これから高齢化ですとか、人口が例えば名古屋とか東京みたいに、都市部のほうに偏っていくみたいなことが、どんどん進んでいくというふうに思います。そうすると、交通の問題というのは今以上にすごく深刻な重要な問題になってきていて、実は西尾市で２年に１回、市政世論調査といって、市民の方に簡単なアンケートみたいなものをとっています。ありがとうございました。そういった中で、西尾市の課題とか、求める取組として何を挙がっているかというと、防災というところも多いのですけれども、やはり公共交通に関する意見が圧倒的に多いです。なので、ここはこれまでもやってきているつもりではありますけれども、さらに力を入れてやっていかないといけないなというふうに思っています。これから、人口が減っていくとどういうふうなことになるかというと、多分、今だとくるりんバスと民間のバスがありますだとか、福祉施設をお客様を運ぶバスがありますとか、自動車学校が教習所に来ている人たちを運ぶバスがありますとか、いろいろあるのですけれども、それが今別々に全部車持っているではないですか。そういったものを、例えば一つの車両、車でそういったいろいろなサービスを兼用しようみたいな時代に多分なってくるというふうに思います。そうすると、僕らもすごく柔軟な柔らかい考え方が求められるのですけれども、そういったことも考えつつ、やはり移動しないと健康にも差し障るし、経済のほうにも悪影響が出てしまうので、公共交通の問題については、しっかりと取組みをしていきたいというふうに思います。ありがとうございました。

９番目、西尾中学校の宮村悠生さん。スポーツで市民の健康づくりを応援したいということで、世代を超えて地域で関わり合うことが大事だということを言ってくれたと思っています。これすごく大事なんですね。宮村議員は運動が足りていないという中で、スポーツという視点で言ってくれたのですけれども、実は小学校区ごとに、コミュニティ推進協議会というものがあって、宮村君も知っているか分からないのですけれども、コミュニティ推進協議会というのは、地域の人の交流をすることを大きな目的にしています。それは運動不足だけではなくて、例えば大きな自然災害、地震とか起こったときに、日頃から顔が見える関係づくりをやっていないと、結構自然災害が起こったときに被害が大きくなってしまうので、そういうことも含めていろいろな活動をしています。それが地区によっていろいろな活動が違うのですけれども、お祭りやっているところもあれば、スポーツ大会みたいなものをやっているところもあって、そういったところは基本的にメンバーは結構高齢の方々が運営をやっているのですけれども、もし自分がそういうものが必要だと思って、運営側の方にやりたいですと言ってもらえると、すごく地域の方は喜ぶのではないかなというふうに思うので、そういったことも考えてもらえるとうれしいというふうに思います。ありがとうございました。

10番目、寺津中学校の倉内拓真さん。持続可能な西尾市に向けてということで、スポーツ施設のところで少し話をすると、実はスポーツの施設の充実を望む声というのは、若い人を中心としてすごく多いのですよ。市の方としても、答弁の中でも言わせてもらったの

ですけれども、スポーツまちづくりビジョンというものを作って、これからスポーツ施設の整備を１個１個やっていきます。今の西尾市のスポーツ施設の現状はどうかというと、数自体はそんなに少ないわけではないのだけれども、でも大会をやろうとかと思うと、どの施設も結構規模が小さくて中途半端だったりとかするので、意見言ってくれたところの人を呼び込むとかという話にすると、どの施設もちょっといまいちだよねという状況になります。なので、大きな大会とかもできるような、ある程度充実した施設をそれぞれの競技においてつくっていくということによって、日常生活でスポーツをやる人だけではなくて、何か大会をやって外から西尾市に来てもらうためにも使えるので、そういった設備を作っていきたいと考えています。ただ、純粋に数だけ増やすと、そういった維持とか残すことにかかるコストがかかってしまうので、ある程度今あるものを減らしていきつつ、新しいものをつくるということを同時にやりながら、施設の充実に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

最後11番目、平坂中学校の牧伽音さん。西尾市のごみ排出量の削減についてということで、ごみの削減というのは、ごみの処理というのは、実は市民サービスの中で一番お金がかかっていて、ざっと言うと年間で20億円ぐらいかかっています。なので、ごみを減らすというのは、思っている以上に大事な課題であって、９年連続ワースト１だったのが脱却できたのはいいニュースなのだけれども、まだまだ愛知県全体で見ると下の方にいるというのはおっしゃるとおりであって、これをさらにごみの削減を進めていきたいのですけれども、ごみの削減をしましょうといっても、そこに共感してくれる人となかなか共感してくれない人がいるのだけれども、今一つ大事かなと思っているのが、ごみを削減した効果を目に見えるような形で伝えるということが、１個大事かなと思っていて、西尾市のインスタグラムとかＬＩＮＥで、雑がみ回収状況とかといって、毎年今、発表しているのですけれども、あれは目標の値に対して、先月がどれくらい集まったかとか、１年前と比べて増えたか減ったかというものをグラフにしながらお伝えをしています。そうすると、自分がやった取組みがこうなったというのが、ある程度目に見えるではないですか。そうすると、目標達成できたのならこれからも頑張ろうとか、目標達成できないのだったら、もっと頑張らないといけないなという意識付けになるので、そういった工夫もしながら、ごみの削減にはしっかりと取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いをします。ありがとうございました。

ということで、11名、学生議員の皆さんから、いろいろな御意見とか御質問をいただきました。その答えの中で、今回気付いた人いるかどうか分からないですけれども、皆さんの力を貸してくださいとか、一緒にやっていきましょうという答えが、実は結構多かったというふうに思います。これは、それをやることが大事だからという点もあるのだけれども、もうちょっと違った側面もあって、どういうことかというと、これから日本全体の人口が急激に減っていきます。もう今から減り始めているのですけれども。西尾市も日本全体の減るスピードに比べれば、もう少し緩やかなのだけれども、それでもどんどん人口が減っていきます。今のシミュレーションだと、30年後ぐらいには、人口が今の４分の３ぐらいになるだろうというふうにシミュレーションしています。西尾市の面積変わらないではないですか。人口が減っていってしまうと、まちの元気がなくなっていくような感じがするではないですか。でも、僕はまだやるようがあるというふうに思っていて、どういう

ことかというと、純粋に住んでいる数だけの人口というのは、確かにそこから税金を払っていただくとかということを考えれば大事なのだけれども、そういった純粋な数だけではなくて、西尾市のためとか社会のために、行動してくれる人の人口が多ければ、絶対数の住んでいる人口が減っていたとしても、僕は西尾市の元気は維持できると思いますし、もっと伸ばすこともできるのではないかなというふうに思っています。だからそのために皆さんがそんなに大それたすごいことをやってくれとは言わないのだけれども、自分の生活の中で、ここをもう少しこうした方がいいのではないかとか、こういうことがやりたいのではないかということを、行動に移してもらえると、その小さな善意とか小さな行動が積み重なっていくことによって、必ず西尾市は今よりもよくなっていくというふうに思っています。だからそういった答えをさせてもらいました。

今日は学生議会なので、皆さんが思っていることをこちらに投げかけてもらうのがメインですけれども、さっきちょっと教育長が言われたみたいに、今年からアントレプレナーシップ教育といって、その意味は説明している時間ないですけれども、各中学校に100万円こちらから支援するので、学校生活をよくするためとか、学校の環境をよくするために、皆さんがお金の使い道を考えて行動に移すところまで、やってくださいという事業を始めました。

これはさっき僕が言ったことと関係をしていて、日本人というのは、他の国の人に比べると、自分の力で世の中をよくしていけると考えている人がすごく少ないんですよ。僕はそれをすごく残念だと思っていて、ただ、小さいうちから自分の力でいろいろなことをやっていく、いろいろなことを変えていけるという経験をしていれば、そういう人は多分減っていくではないですか。だから中学校のうちからそういったことに取り組んでもらって、自分の力で西尾市をよくしていこう、自分の力で社会をよくしていこうという人が増えていけば、さっき言ったみたいに、人口は減っていくかもしれないけれども、西尾市のまちの元気というのは、僕は減らないというふうに思っています。なので、アントレプレナーシップ教育なんかも活用してもらいながら、今回皆さんすごく西尾市のことの感心を持ってくれて、高い意識を持ってくれたので、皆さんがこれから高校生だとか例えば大人になっていく中で、少しでも西尾市のこと考えてもらって、行動に移して、そういった明るい希望のある人生を歩んでいってもらえることを期待していますし、そういった皆さんのチャレンジを応援できるような西尾市でいたいなというふうに思っていますので、そこの決意みたいなものをお伝えさせてもらって、最後の挨拶に変えさせていただきたいというふうに思います。

皆さん今日は、どうも本当にありがとうございました。

広報広聴課長／牧原理恵子

以上をもちまして、西尾市学生議会を終了します。

皆さま、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会